

職場における交通安全指導 Part.22

一般単路の多発事故パターンとその防止策

道路形状別にみた多発事故パターンとして、前2回で「交差点」と「高速道路」を掲載いたしました。

今回は、「一般単路の多発事故パターンとその防止策」を掲載いたしますので、社内の運転者教育にご活用ください。

一般単路には主に直線道路と見通しの悪い曲線(カーブ)道路、坂道等がありますが、これらの道路上でよくある事故には次のようなものがあります。

1. 前車の急停止による追突事故

前車が、自転車や歩行者の急な飛び出しや、脇道からの進入車との衝突を避けるために急停止したため、急いでブレーキを踏んだが、車間距離不足のために間に合わず追突するというケースがあります。

直線道路上における前車の急停止による追突事故を防止するために、次の点を指導してください。

(指導のポイント)

走行中の速度に応じて、前車がいつ急停止しても追突を避けられるだけの車間距離を常に保持させるために、次の内容を周知徹底してください。

…道路交通法第26条(車間距離の保持)…

車両等は、同一の進路を進行している他の車両等の直後を進行するときは、その直前の車両等が急に停止したときにおいてもこれに追突するのを避けることができるため必要な距離を、これから保たなければならない。

歩行者等の急な飛び出しや、脇道からの無理な進入車が予想されるなど、交通状況は刻々と変化するので、前車の動向には十分な注意を払い、車間距

離を保ち、必要以上の速度は出さない。

2. 看板を見ながら運転し、停止中の車に追突

走行中、看板に興味を魅かれ、これを眺めながら走行したため、信号待ち車列に追突するというのも、多発事故パターンの一つです。

また、渋滞時に気が緩み、脇見運転や考えごと、あるいは伝票(送り状)に目を通していたため、前車の停止に気付くのが遅れ追突するケースも目立っています。

脇見運転による追突事故を防止するために、次の点を指導してください。

(指導のポイント)

運転以外のことに意識がいくと、“一瞬と思った時間が、意外に長くかかっている”ことを指摘し、運転に意識を集中させる。

3. 上り坂で車両が後退し、後続車に逆突

ゆるやかな上り勾配の坂道で、赤信号のため停止中、あるいは渋滞のため停止中に、ブレーキペダルの踏みが甘くなり、そのまま後退して後続車に逆突するケースです。

この種の事故を防止するために、次の点を指導してください。

(指導のポイント)

坂道で信号待ちをしたり、渋滞のため停止する場合には、サイドブレーキをきちんと引くことを普段から習慣づける。最近ではブレーキペダルを踏みながら地図を見たり、伝票の整理等を行い、足が緩んで後退し、後続車に逆突する事故が多発していますので、要注意です。

前の車に続いて停車をするときは、あまり接近

せず、仮に前車が後退しても衝突を避けられるだけの車間距離を保持するようにする。

4. 路上でUターンしようとして後続車と衝突

二車線道路の左車線を走行中、道を間違えたことに気づき、慌ててUターンしたところ、後方より走行してきた車両と衝突する事故パターンです。

この種の事故も少なくありません。次の点を指導し、事故の防止をはかってください。

(指導のポイント)

初めて行く場所については、事前に経路の確認を行うと共に、万一道を間違えた場合の措置を平素から全員に周知徹底しておく。

交通量の多い道路でのUターンは非常に危険な行為であり、また、慌ててバックしたりすると後続車との逆突事故にもつながるので、このような場合、一旦そのまま走行し、安全を確認して追越車線に入ってから行うか、次の交差点で右左折して戻るようにする。

相手が譲ってくれたからといって、一気にUターンすると、その脇から二輪車等が飛び出してくる場合もあります。安全の確認を怠らず、あくまでも最徐行でゆっくりと行う。

5. カーブで追い越しをかけ、対向車と衝突

前車がノロノロ走行していると、つい気持ちがイライラし、追い越しをしがちになります。しかし、見通しの悪いカーブ等の道路での無理な追い越しは、一歩間違えば対向車との正面衝突事故に直結します。

カーブした道路上の事故を防止するために、次の点を指導してください。

(指導のポイント)

カーブ付近では絶対に追い越しはしない。

カーブの手前で十分減速する。減速しないまま急ハンドルを切ったり、ハンドルを切りながらブレーキを掛けたりすると、横転や横滑りを起こす危険性がある。

右カーブでは、運転者は無意識のうちに、間近のセンターラインを見ながら運転しており、知らず知らずのうちに、中央線をはみ出して走りがちである。一方、センターラインからはみ出してくる対向車もありうるので、あらかじめ道路の中央から離れて走行するようにする。

カーブ付近での路上駐車は、自動二輪車や他の車両を事故に巻き込む危険性が非常に高いので、絶対にしない。

6. お年寄りの自転車がふらついて車体に接触

お年寄りの乗った自転車の脇を通過したところ、大きいトラックがすぐ横を通ったことに驚き、ふらついて安定性を失い、車体に接触し転倒するという事故パターンです。

ゆっくり走っている自転車やバイクは、すぐ横を車が通ると非常にふらつきやすいもので、特にトラックの場合、自転車やバイクに乗った人が感ずる威圧感は大きく、身が“すくむ”思いをすることがあります。

この種の事故を防止するために、次の点を指導してください。

(指導のポイント)

自転車の動きに注意し、速度を落として通過する。

ふらつきを予想し、離れて通過する。

